

1. 分析結果

宮古短大部の全体集計の結果について、総合的な観点からの質問 Q12「この授業で得たものは多かったと思いますか」については 68.1%が肯定的であった。Q13「総合的に考えてこの授業に満足できますか」では 66.5%が肯定的であった。そう思うの、の合計も Q12,Q13 とともに 40%以上で比較的満足度が高い傾向が伺える。そう思わないの、は Q12,Q13 とともに 10%以下であった。各質問において から までの 6 項目評価でそう思わないの 合計が 10%を超えたものは Q5 の 1 質問だけで、他は特になかった。

Q1「この授業にはもともと強い関心がありましたか」では、60.3%が肯定的であった。そう思うの、併せて 35.9%である。Q4「この授業に真剣な態度で参加できましたか」については 57.5%が肯定的であった。そう思うの、併せて 32.8%であった。Q5「この授業の予習・復習や課題等に積極的に取り組みましたか」について 47.3%が肯定的であったが、52.6%が否定的であった。そう思わないの、の合計も 14.4%でやや多い傾向がある。そう思うの、の合計は 25.5%である。Q7「授業進める速度はあなたにとってどうでしたか」は、77.9%が適切であるとの評価で、概ね適切であると考えられる。Q8「授業の難易度はあなたにとってどうでしたか」は 61.0%が適切である評価であるが、やや難しい、難しいを併せて 33%で 1/3 が難しいと感じている。

Q9「授業技術や準備について特に改善すべき項目」については、学生は教員の話し方、教材や板書の使い方、授業内容の構成、教室等の環境、設備に改善点があると感じている。Q10「教員の熱意をどの程度感じましたか」については 69.8%が肯定的であった。Q11「あなたはこの授業の到達目標を達成できましたか」については 57.5%が肯定的であった。できたの、の合計は 29.0%であった。

2. 課題

総合的な評価として教員の熱意を含めて比較的満足度が高い傾向がある。しかし、全体として学生の 1/3 が授業を難しいと感じている。また、学生自身が予習、復習、課題等への積極的な取り組みについて否定的な回答がやや多く、そう思わないの、合計で 10%を超えているのはこの項目だけである。この 2 点が今後の改善が必要な部分と考えられる。

3. 改善策

予習、復習、課題等の実施が少ないことは、授業内容が難しいと感じていることと関連があるとも考えられる。授業内容をやさしく感じ、理解が進むことによって、予習、復習等への取り組みが前向きになる、あるいは逆に予習、復習を促すことを優先する捉え方もあると思われる。当面は授業内容を分かりやすくすることと、オフィスアワーや答えますカード、出席カード等による学生との質疑応答等を通して理解を深めさせることが重要と思われる。